

9月20日（金）

おはようございます。

一昨日に、成田隆一先生という歴史学者の方にお越し頂き、高校一年生に向けて講演をしていただきました。

「歴史とは何か」というお話でした。今から見ると差別意識があるので問題視される1930年代の少年漫画、「冒険ダン吉」を引用されて、このように時代によって国民の価値観が変化することを意識することが、歴史を意識することだというものでした。

最後に質疑応答があり、一人の生徒がアイデンティティに関して質問をしました。「アイデンティティとは、他の人に決めてもらわなければならないものなののでしょうか」という質問でした。それに対して成田先生は、「自分一人では、自分がどのような人間なのか分かりません。他者とコミュニケーションを取る中で、自分がどういう人間であるのかが明らかになり、アイデンティティは確立されるものなのです」というお答えでした。

また、「朝鮮半島で起きた1919年の『三・一運動』について、祖国の独立というお話がありましたが、そもそも祖国の独立とはどういう意味なののでしょうか」という質問もあり、いい質問をするなと思いました。最後の方で、生徒が「歴史を多角的に見なければ、我々は将来を多角的に捉えられないということを知りました」といった謝辞を述べましたが、これもまたとても良かったです。成田先生は、「大学生でもあれだけの質問は出てきません」と非常に感心されていました。

最近私も感じるどころがあり、教頭の長屋先生ともお話していたのですが、昔の生徒はこういう講演を行っても、受験には関係ないので、「受験勉強だけをすればいいじゃないか」という雰囲気はどこかにあった。しかし最近の生徒諸君の中には、「本気で何かを学んでやろう」という人が増えているように感じます。これからは、よい大学を出れば、よい企業へ就職できるといった時代ではないということを感じているからではないのでしょうか。

以前、井上愛一郎先生からもそういうお話を伺いました。それは、中学生が、自分の文字をコンピューターに覚えさせようとしており、大変感心されていました。私がある意味を尋ねたところ、「人が書いた文字をコンピューターに覚えさせるという作業は、すでにソフトがアメリカで開発されており、われわれ日本人はそれを使わされています。この生徒が行っていることは、ソフトを自前で作る過程で行う作業であり、それに関心を持っているところが大変素晴らしいのです」と言っていました。

自分のことで恐縮ですが、私はチベット密教の難しい本を出版しました。自分で言うのは恥ずかしいですが、関係者からは非常に好評を得ています。しかし難解は難解です。ところが、ある生徒から、この本に関して、22の質問状を受け取りました。そこで、この生徒と対面をして、「受験勉強をせずに、このような本を読んでいて大丈夫なのか」と言いましたけれども、彼には知的好奇心に妥協なくやっ行ってこうという雰囲気がありとても感心したのです。

こういう傾向は清風独自のものなのか、今の若い世代の風潮なのかはわかりませんが、以前の雰囲気とは違っていることだけは確かです。これからの世の中では、自分の知的好奇心に関して、妥協なく追求し、ほんとうの実力をつけることが大事であると感じているから、そういう姿勢が表れてきているのだと思います。

自分をもっと知りたいという知的な好奇心に対して、自分が納得するところまで、とことん詰めていく行為は、これからの時代を生き抜く人材として、とても重要な要素だと思います。清風でもクラスに一人や二人そのような生徒がいるというのは、とても素晴らしいことであり、全くいないのとは大きな違いになるでしょう。

清風の卒業生で、現在東京大学の准教授である権業先生が、自分は数学しかできなかつたけれど、しかし数学だけは妥協せずにとことんやろうと思っていたとお話してくださったこととも共通するのではないかと感じます。

般若心経にある「深般若波羅密多を行ずる」とは、確信に触れるまで努力をすることです。こういう人がクラスに一人いるだけで、他の生徒も影響を受けるでしょう。これからの時代はそういう姿勢が、多くの人に求められてくるし、リーダーの資質としてとても大切なものなのです。諸君たちもそうであるように心がけて頑張って貰いたいと思います。

今朝の話は、これで終わります。

学校長